

五島市立奈留小中学校
校長 宮本 金一朗

1 教育方針・教育理念

日本国憲法・教育基本法等関係法令及び県・市の教育方針を踏まえ、教育の中心に子どもを据え、ふるさとに誇りを持ち、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かな子どもを育成する。そこで私たちは「子どもの可能性」を信じ、子どもの持って生まれた力を引き出すため、深い愛情を持って日々教育活動に邁進する。予測困難な未来を生きる子どもたちに、「人前力」「実行力」「貢献力」「体力・耐力・態力」を身に付け、夢の実現に向かって努力する「**奈っ自慢子**」の育成を目指す。

2 校訓 「なせばなる」

「なせば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」うえすぎようざん 上杉鷹山

児童生徒： 健康でたくましく自分の持つ可能性へ挑戦する。

教職員： 使命感と責任感を持って、組織で子どもの力を引き出す。

3 学校経営の基本方針 キーワード（楽しい学校、考える学校、鍛える学校）

(1) 「本気の経験で育てる」(本気の取組からしか感動は生まれない)

涙が出るほどうれしいことや涙が出るほど悔しいこと等の感動的な体験を経験させる。その経験が子どもの将来を支える。すべての教育活動において「子どもを中心に据え」「子どもの可能性」を信じ、発達段階に応じて自主的・主体的に活躍する場作りを行う。

(2) 「主体性の育成」(待つこと・褒めることができる教職員)

自分の仕事や役割をやりきらせる。達成できたら褒めて「小さな自信」を持たせ、自己有用感を高め、充実感や満足感、成功体験を経験させる。次に、新しい仕事を自分から見つけるように促し、全職員で主体性（気づくー考えるー動く）を育成する。

(3) 「人前力の育成」

本校の子どもたちは少人数で人間関係が固定化しており、「言わなくても伝わる」と思っていたり、人前で発言・行動する勇気に欠けるところが見られたりしたことから、今年度も「人前力」の育成に力を入れる。

(4) 「あいさつの徹底」

人間力・社会力の育成に欠かせない『相手に気持ちを伝えるあいさつ』の指導を徹底する。将来子どもたちが良好な人間関係が築けるよう、互いを認め合うあいさつをする学校を目指す。地域を巻き込んで、9年間を通して『あいさつ』をからだに染み込ませる。

(5) 「学力向上・授業改善」

児童生徒一人一人の個性・能力に応じた教育を推進するために、特別支援教育の視点に立った教育活動の充実を図る。また、新学習指導要領を踏まえた授業改善（主体的・対話的で深い学び）に励み校内研修を充実させ、子どもたちにわかる喜びを味わわせる。

(6) 「体力・耐力・態力の向上」

社会をたくましく生きていくための基礎となる「体力・耐力・態力」の向上を図る。

(7) 「多様な他者との協働」

「みんな違ってみんないい」相手のことを思いやり、違いを個性、多様性として認め、いじめや差別のない、子どもが安心して学べる居場所づくりを行う。

(8) 「小中高職員の連携と共に学び合う実践」

発達段階に応じた課程のまとまりを重視して、小中高全職員ですべての奈留の子どもの指導にあたり、小中高職員のお互いの良さを学び合う。

(9) 「協働し、働きがいのある職場づくり」

教師としての使命感に燃え、倫理観を高め、好ましい職場環境を創る。相手に対する気配りを大切に、協働し、働きがいのある職場づくりに貢献する。また、チームとして奈留小中の誰にも不祥事を起こさせない。一人の不祥事が隣人の人生を変える。

4 教育目標

夢・実現 ～夢の実現に向かって努力する「奈っ自慢子」の育成を通して～

(1) めざす生徒像

小中一貫教育を通して社会に貢献する人

- ①礼儀正しく思いやりのある子ども
- ②自ら学び自己表現のできる子ども
- ③健康でたくましく、粘り強く取り組む子ども

(2) めざす学校像

小中高一貫教育の特性を生かす

- ①笑顔あふれる楽しい学校
- ②相手に気持ちを伝えるあいさつができる学校
- ③可能性に挑戦できる考える学校
- ④切磋琢磨し、高め合う学校

(3) めざす職員像

奈留小中学校の職員として情熱と愛情（率先垂範）

- ①信頼される職員
- ②わかる授業を実践できる職員
- ③子どもの力を伸ばす職員

(4) 育成をめざす資質・能力

- ①つながる力『人前力』（思考力・判断力・表現力）

自分の考えを根拠をもとに筋道を立てて表現し、他の人の考えや思いを理解しながら、主体的に人と関わることができる。

前期（小1～小4）「自分から」

中期（小5～中1）「認める」

後期（中2、中3）「協働」

- ②わかる力『実行力』（知識・技能）

自ら課題を見つけ、計画的・主体的に解決することで、目標達成を果たすことができる。

前期（小1～小4）「気づく」

中期（小5～中1）「考える」

後期（中2、中3）「動く」

③えがく力『貢献力』（学びに向かう力・人間性等）

社会に関する視野を広げながら、自らの生き方や望ましい職業観・勤労観を思描き、自らの適性を理解した上で、見通しをもって生活することができる。

前期（小1～小4）「あこがれ（モデリング）」

中期（小5～中1）「夢（人生の願い）」

後期（中2、中3）「志（人のため）」

④体力・耐力・態力

社会をたくましく生きていくための基礎となる力
体力、耐力（我慢する力）、態力（姿勢などきちんと正す力）

5 本年度の重点努力目標

○自ら動く人前力の育成

①主体性（前期：気づく—中期：考える—後期：動く）

②人前力・勇気を持って自分から表現する力（前期）
・他者の思いを受け止める力（中期）
・協働してより良いものをめざす力（後期）

③3つの力を高めるための7つの支える力を身に付けさせる。（奈留小中の愛言葉）

あ 挨拶 い 一生懸命 う 動く え 笑顔 お 思いやり か 考える き 気づく

○英語教育の充実

①表現力の向上をめざした英語教育の実践
②校内研修・小中一貫教育での取組をつなぐ。

○しま留学制度の充実

①しま親、実親、地域をつなげる。
②しま親の確保

6 具体的な努力目標・具体的実践事項

(1) 教科等の指導

期	努力目標	具体的実践事項
1	○これまでの英語教育の取組を生かして、さらに表現力の向上につなげる。	①英語活動、英語科を充実させた表現力の向上 五島市研究指定（R2～R4） 英語科の取組を他教科に生かす。
教	○授業改善を図る。	②本時で身に付けたい力（学習指導要領の指導事項が根拠）を明確にした授業 ③教師がしゃべりすぎない （5分間の振り返りの時間の確保）
科	○基礎基本の徹底 「やる気のない子どもはいない。やり方がわからずに困っているのです。」	④「基礎タイム」「リスタイム」による継続した改善サイクルの活用
指	○自ら学ぶ「楽しさ」を味わう	⑤「わかった」「できた」という喜び、「なぜ？」という探究心を呼び覚ます授業実践
導	授業	

	<p>○「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業実践を行う。</p> <p>○コミュニケーション能力を高める授業を意図するとともに、自ら学ぶ姿勢をし、学力の向上を図る。</p> <p>「教室はまちがうところだ」</p>	<p>⑥家庭学習の習慣化とその充実（自学ノートの充実） 前期：計画を立てて続ける。 中期：課題を見つけ続ける。 後期：自分で学ぶ力を伸ばす。</p> <p>⑦めあての提示の工夫と、見通しを持たせる授業（主体的学び）子供が学ぶ意欲や必然性を感じるめあて</p> <p>⑧学習規律の確立と言語活動の充実（話し合い活動）（説明場面の意図的設定と「伝える力」の育成） 「理解できたら説明できる。説明したら理解が深まる。」 双方向や1往復半のコミュニケーション（対話的学び）</p>
2 奈留・実践	<p>○小中高一貫教育の強みを生かし、人間力の向上を図る。</p> <p>○予測困難な社会で生きるための、学び方やものの考え方を身に付け、問題解決や探究活動の充実を図る。</p>	<p>①系統化された小中高のカリキュラム全体図を元にした授業づくりと、3つの力の育成</p> <p>②子どもの自主性を重視した効果的な体験活動の実践（失敗経験から学ぶ）</p> <p>③地域人材の効果的な活用</p>

(2) 教科等以外の指導

期	努力目標	具体的実践事項
1 道徳教育	<p>○学校教育全体を通じて、「思いやり」（重点内容項目）を身に付け、道徳的実践力の向上を図る。</p>	<p>①「考え議論する」道徳授業の研究と実践</p> <p>②差別やいじめをしない、させない指導（己の欲せざる所、人に施すこと勿れ：自分がされていやなことは人にしない）</p> <p>③道徳の指導と家庭との連携（学級通信等の情報発信）</p> <p>④掲示教育による啓発</p>
2 生徒指導	<p>○自己有用感を持つ子どもの育成 ・即時・同一・継続 ・危機管理の「さしすせそ」（最悪・慎重・素早く・誠意・組織）</p>	<p>①問題行動の未然防止と発生時の適切な対応 ・電話連絡や家庭訪問・定期的な教育相談（信頼関係の構築）「スピード対応で誠意を示す」</p> <p>②「相手に気持ちを伝えるあいさつ」の推進</p> <p>③情報の共有化と緊密な報告・連絡・相談・確認</p>
3 特別活動	<p>○各種行事に積極的に参加し、自主的活動力やコミュニケーション能力の高揚を図る。</p> <p>○児童生徒会活動を活性化</p>	<p>①「子どもは行事で育つ」を念頭においた達成感と自己有用感を味わわせる意図的指導（人前力の育成）</p> <p>・上級生は下級生に手本を示し、下級生は上級生を目標にする。</p> <p>②委員会活動の充実と自治意識の高揚により所属感、自己有用感の醸成</p>
4 進路指導	<p>○系統的・計画的な進路指導を充実させ、生き方を考える指導を行う。</p>	<p>①教師が夢を語り、子どもにあこがれ・夢を持たせ、人のためという志に高める指導（貢献力の育成）</p> <p>②『奈留・実践』「あすなる」の充実</p>
5 健康・安全	<p>○安全指導と事故防止対策を十分に行い、安全で安心な学校づくりを図る。</p> <p>○たくましい心と体を育成する部活動指導の推進</p>	<p>①新型コロナウイルス感染拡大防止対策の徹底</p> <p>②アレルギー児童・生徒への対応と、マニュアルを意識した生命尊重の徹底</p> <p>③危機管理と安全管理の徹底</p> <p>④養護教諭や学校栄養職員との連携を密にした健康管理</p> <p>⑤ガイドラインの遵守（部活動の目的は人間形成） 体力・耐力・態力の向上</p>

6 環境教育	○言語環境を含めた、学ぶにふさわしい環境づくりに努める。 ○心を磨く清掃を目指し、師弟同汗で美しい校舎を維持する。	①美しい言語環境づくり ②朝読書の充実と読書の習慣化 ③効果的な掲示教育の実践 ④ 師弟同汗による勤労意欲の向上 ⑤落ちていたゴミ等に気づき、拾って捨てることのできる子どもの育成
7 人権・平和	○考えの違う他者やマイノリティを受け入れ、差別、いじめを根絶し、一人一人が互いを認め合い、尊重し合いながら自己実現を図る子どもの育成を図る。 (みんなちがってみんないい)	①人権・なかよし集会、平和集会の充実 ②自分とは違う多様な存在に気づかせる指導を通して、差別やいじめを絶対許さないという強い姿勢及び多様性を尊重する態度の育成 ③しま留学生の受け入れによる多様性の醸成 多様性・ダイバシティ・LGBT・レインボーフラッグ レインボースペース（中庭）

(3) 学校運営に関すること

欄	努力目標	具体的実践事項
1 学校運営	①当事者意識を持った経営参画 ②同僚性を発揮する校務分掌 ③無駄のない予算執行	①OODAループによる子どもの体験視点に立った教師集団の意思決定 ②PDCAサイクルによる議論・協議を踏まえたチーム・組織での業務推進 各分掌における目標を立てる。 ③安全点検実施による安全・安心な施設・設備の管理 「予算」「備品は財産」という意識を持った物品購入等
2 校内研修	○小中高一貫教育研究を図り、指導力の向上を図る。 ○互いに学び合う校内研修 ○初任研等経年研修	①小中高職員の連携を一層深めた共に学び合う実践 ②3大行事を中心とした人間力・社会力の育成と英語教育の推進 ③授業を公開し合い、授業力を高める。 ④現職教育の充実 「メンター」を意識した初任者・若手職員の育成
3 家庭地域との連携	○地域とともにある学校づくりの推進 ・家庭・地域との連携	①愛育会（PTA活動）の活性化（年6運動の推進） ②学校便り・学級便り（目標：月1発行） ③地域人材を生かした教育活動と地域に出て行く教育活動 ④しま留学制度の充実 しま親・実親・地域をつなげる。 しま親の確保

7 その他

- ・「学校における働き方改革」を推進する。児童生徒の笑顔のためには労力は惜しまないが無駄は削減する。働き方改革の目的は教職員の健康、授業磨き、効果的な教育活動の持続である。スクラップアンドビルド
- ・「楽しい学校」であるためには、職員が日々楽しく働ける職場でなければならない。笑顔あふれ、会話が弾む職員集団でありたい。